

明治の森箕面自然休養林管理運営協議会

第8回例会

議事次第

日時：平成22年3月11日（木）

13:30～15:30

場所：箕面市職員会館

議題：

1. 景観対策に関する事例紹介
「嵐山国有林の取扱に関する意見交換」について
2. 21年度活動の振り返りと来期の活動方針について
3. エキスポの森の植樹祭について
4. 各団体からの報告
5. その他

「嵐山国有林の取扱いに関する意見交換会」について



平成22年3月11日
京都大阪森林管理事務所

1

目次

1. 嵐山国有林の概要
2. 嵐山国有林の課題
3. 「嵐山国有林の取扱いに関する意見交換会」の開催

2

1. 嵐山国有林の概要

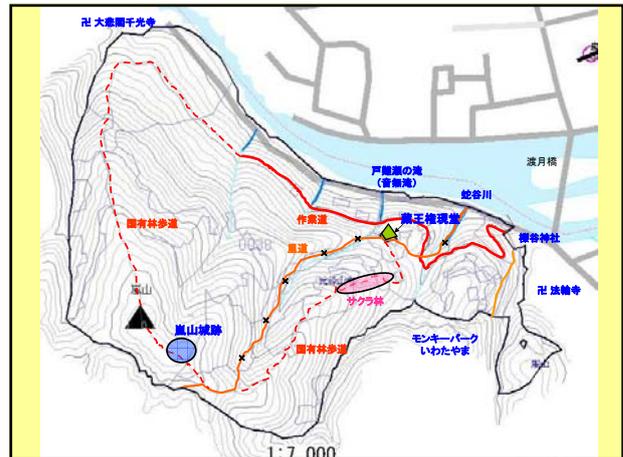
(1)概要

- 面積 : 59.03ha
- 法令制限: 風致保安林(森林法)、土砂流出防備保安林(同)、史跡名勝(文化財保護法)、風致地区(都市計画法)、歴史的風土特別保存地区(古都保存法)、鳥獣保護区(鳥獣保護法)
- 機能類型: 「森林と人との共生林(森林空間利用タイプ)」、レクリエーションの森「嵐山風景林」に指定。
- 江戸時代までは、大部分が天龍寺領。「社寺上知令」により官有地に編入。



嵐山国有林位置図

3



1. 嵐山国有林の概要

(2)変遷

- 13世紀末: 亀山上皇が吉野からサクラ数百株を移植。その後も、天龍寺がサクラやマツを植栽・管理。
- 明治4年: 「社寺上知令」により天龍寺領から官有地に編入。
- 大正～昭和初め: 保護林、風致保安林、史跡名勝、風致地区に指定→「禁伐」により、アカマツ衰退、広葉樹林化の兆し。
- 昭和6年: 大阪営林局が「嵐山風致施設計画」を樹立。画伐及びマツ・サクラの苗木植栽を計画。
- 昭和30年代後半: 松くい虫被害が顕著に。
- 昭和57年: 「京都市近郊国有林野の取扱いについて」を策定、嵐山保勝会との共催による「嵐山植林育樹の日」を開始。
- 平成13年: 「世界文化遺産貢献の森林」に設定。

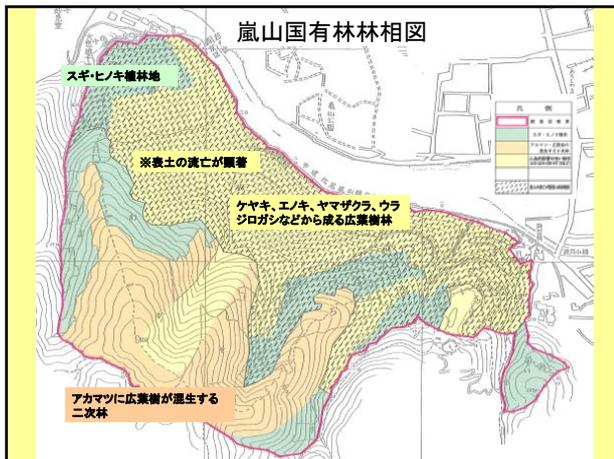
5

1. 嵐山国有林の概要

(3)現況

- 北向きの急傾斜斜面が大半を占め、表土の流亡が発生しやすい。
- 節理や風化を受けた箇所が多く、落石の危険性あり。
- 林況は、斜面上部の「アカマツ二次林」、斜面下部の「広葉樹林」、及び「人工林」の三相化。
- 獣害は、シカによる食害・剥皮、サルによる折損が発生。
- 嵐山の観光客数は増加傾向、渡月橋周辺に集中。
- 昭和23年度から継続的に治山事業を実施。落石被害は減少。一部、老朽施設あり。
- 森林法、文化財保護法、都市計画法、古都保存法による重層的な伐採規制あり。いずれも、立木の伐採には許可等が必要。(択伐の面積制限はなし。)

6



2. 嵐山国有林の課題

(1) 技術的課題

(ア) 植生の変化と植栽木の生育不良

- サクラ、カエデの老齢化が進行、マツ林が衰退。昭和57年より、サクラやカエデの植栽を進めてきたが、相当数が枯死。

(イ) 獣害の頻発

- シカの個体数増加により、下層植生が消滅。

(ウ) 落石被害の防止

- 下層植生の消滅などにより、落石、崩壊の危険性が増大。単なる被害防止ではなく、植栽基盤の形成も必要。

(エ) 観光需要への対応

- 嵐山の観光客数は増加傾向にあるが、渡月橋周辺に集中。林内の歴史的・文化的資源は潜在的魅力あり。

12

2. 嵐山国有林の課題

(2) 連携の課題

(ア) 地元との意志疎通不足

- 旧土地所有者である天龍寺との関係をはじめ、旅館や飲食店など多数の関係者あり。地元に対して及び腰。
- 実際は、地元関係者は嵐山の現状に危機感あり。

(イ) 施業技術の不足

- 広葉樹植栽技術の不足や獣害に対する認識不足。
- 過去の方針に漫然と従うだけで、植樹行事開催だけが自己目的化。

(ウ) 施業規制に対する理解不足

- 多様な法令制限が課せられていることから、必要以上に伐採を抑制。
- 実際は、500平米までの皆伐可。

- 地元は嵐山の現状に危機感を抱いているにもかかわらず、年1回の植樹行事だけお茶を濁してきた。植樹も、なるべく自立たない場所で、過度に伐採を抑制。植樹した苗木も枯死するものが多数。

13

3. 「嵐山国有林の取扱いに関する意見交換会」の開催

(1) 意見交換会の開催

- 平成21年6月に、「嵐山国有林の取扱いに関する意見交換会」を設置。翌年2月まで5回の会合を開催。
 - 地元：嵐山保勝会や天龍寺などの関係者6名、
 - 研究：植生、景観、獣害、治山の専門家4名
 - 行政：各種法令規制を所管する京都府及び京都市の関係者4名(オプザーバー)
- 専門家から、植生、景観、獣害、治山の4つの観点から見た課題と対策を発表した上で議論。
- 現地検討会も実施。



3. 「嵐山国有林の取扱いに関する意見交換会」の開催

- 議論の結果、「嵐山国有林の今後の取扱方針」をとりまとめ。

(1) 景観保全に向けた落葉広葉樹等の植栽・管理

- 光環境を確保した上で、サクラ、カエデの植栽を継続。
- 尾根筋でアカマツ林を保全。
- 地元の協力により、苗木の生育状況を確認

(2) 植栽木の確実な保護と個体数管理に向けた条件整備

- 苗木植栽箇所は防鹿柵で確実に保護。
- 個体数管理の実施に向けてデータ収集。
- 森林環境教育等を通じて、シカ対策の重要性への理解を醸成。

15

3. 「嵐山国有林の取扱いに関する意見交換会」の開催

(3) 治山事業による荒廃防止と植栽基盤形成

- 落石防止、斜面崩壊防止のための治山事業を実施。
- 土壌の保全により、樹木の植栽基盤を形成。
- 林内の危険性を周知。
- 地元の協力による日常的な巡視。

(4) 林内利用の促進に向けた条件整備

- 林内見学会等を積極的に開催。
- 蔵王権現堂への参拝コースを段階的に整備(一般への開放は将来課題)。

(5) その他

- 小学校を対象とする森林環境教育を実施。
- 平成22年度以降も意見交換会を継続的に開催。

16



平成22年2月26日付け京朝新聞(朝刊28面)

平成22年2月27日付け毎日新聞(朝刊24面)

3. 「嵐山国有林の取扱いに関する意見交換会」の開催

(意見交換会のポイント)

(ア) 地元、研究、行政の三者との連携

- 地元の「思い」、研究者の「技術」、行政の「権限」を持ち寄り検討。

(イ) 「林学の総合性」を活かした総合的検討

- 分野別の縦割りを超えて、特定箇所における課題を植生、景観、獣害、治山の4分野から総合的に検討。

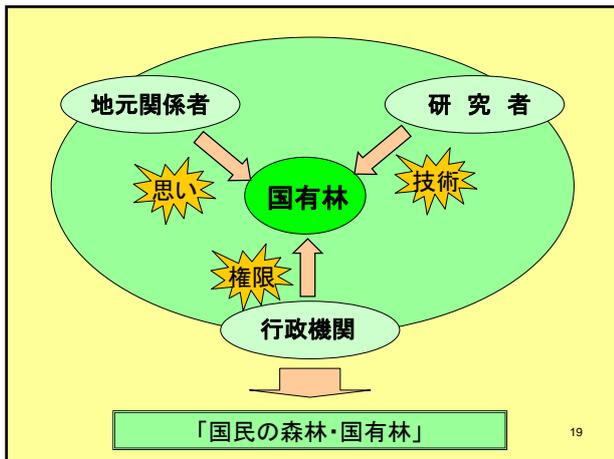
(ウ) 専門家からの発表による議論の透明性を確保

- 「結論ありき」の事務局主導ではなく、専門家からの提言を重視。

(エ) 継続的な議論の場の設定

- 単発ではなく、定期的な意見交換を継続することにより、関係者間における緊張感を維持。

18



箕面国有林を対象として、自主的な活動により、同休養林の整備・管理及び活用を促進するとともに、関係者の連携を密にしつつ、対話と協働的な取り組みを開始。

I、設立以降の振り返り

主な活動計画	21年度の活動実績と主な課題
1、同休養林の環境整備・保全 ①外部資金の活用による、あすまや・看板等 簡易な施設整備やシカ防護柵の設置 ②あすまや・看板等既存施設の維持管理・修繕 ③眺望確保のための枝落とし等による林内の整備 ④箕面の山大掃除大作戦への協力	①パトロール隊ゴミ一時置場看板 清水谷と勝尾寺園地に設置(3月) ②勝尾寺園地での製材活動(里山工房) ③箕面の山大掃除大作戦への協力 本協議会として参画(12/5) *アサヒビール㈱のボランティア参加 →シカ対策の実施
2、同休養林の活用(ソフト面) ①森林環境教育(ガイドツアー)の実施	→検討 *アクセスが課題 (案)森林セラピーの研究
3、同休養林のPR、普及啓発 ①パンフレットの作成・配布 ②箕面市周辺での各種イベントに出展・協力	→パンフレット案の作成 (案)地図と箕面の生き物たち ②市民イベント・森の音楽会(11月) 「オオクワガタの棲める森づくり」出展
4、同休養林の利用者の安全対策 ①「緊急ポイント」に維持管理への協力	
5、生物多様性確保に向けた植生調査、希少種の保護・増殖	①シカ害対策研究フォーラム(11月)実施 ②箕面自然調査会による調査 →2010年9月頃に報告書とりまとめ
6、その他 ①意見交換・情報交換 ②箕面森林環境保全ふれあいセンターの 「箕面体験学習の森」事業との連携強化 ③協働活動に担い手確保の為に構成団体の拡大	①「箕面体験学習の森」事業との連携実施 ②行政・市民団体の情報の共有化に注力 ③箕面公園管理事務所との情報の共有化 ④対話と協働の仕組み創りに取り組む

協議会例会の 主な議事内容	第1回	5月28日(木)	1、委員、行政関係委員及びオブザーバーの追加承認 2、各委員からの今年度活動計画の報告と今後の意見交換
	第2回	6月18日(木)	1、アサヒビール㈱サポーター協定の調印と制度取扱要綱の制定 2、シカ害対策シンポジウムの開催について
	第3回	7月23日(木)	1、シカ害対策研究フォーラムの開催について 2、ニホンザルの現状と対策、樹林ガイドラインの紹介
	第4回	9月17日(木)	1、大阪府シカ保護管理計画の報告と研究フォーラムについて 2、市民団体(パトロール隊などの活動報告)
	第5回	10月22日(木)	1、全体活動計画について 2、シカ害対策研究フォーラムの開催について 3、市民団体(里山工房などの活動報告)
	第6回	11月26日(木)	1、シカ害対策に関する研究フォーラム開催報告 2、箕面国有林における次期施業実施計画案について 3、協議会活動全体計画について
	第7回	1月21日(木)	1、箕面公園の植生や景観について ①箕面公園のもみじ再生プロジェクト、②市民参加の植生や景観の保全 2、「ナラ枯れ」の現状と対策について

行政・市民団体の活動情報の共有化や協働の取り組みの体制創り、及びイベント実施などにおいて一定の成果が得られたが、来期に向けての重点方針、及び具体的な計画の策定が必要。

◇会計の概要(2/28現在)

項目	金額	摘要
協議会設立、初期費用	6,920	協議会ゴム印、その他事務費
シカ害対策研究フォーラム	13,167	講師謝礼、チラシ印刷
美化活動支援	7,350	パトロール隊ゴミ一時置場看板
支出計	27,437	残金 ¥272,563

(注記) ・アサヒビールからの支援金、11月20日に、¥300,000入金
・シカ害対策フォーラム(11/1)、協議会とNPO山麓委員会との共催で実施